北山校区コミュニティ協議会（姶良市）

「竹」が結ぶコミュニティの輪

高齢化率
68.7 %
291 人
地域の人口
令和５年１月１日時点

竹水鉄砲合戦他 2019

地区概要

姶良市の最北部に位置する自然豊かな森林と田園風景の広がる農村地帯で、姶良市 17 校区の中でも大きな規模の面積を有する校区。8 自治会で構成され、住民の多くが農業従事者。

コミプラ設立の経緯

北山校区では、人口減少が進んでいたことから地域の将来に対して危機感を抱いており、平成 21 年度以降、休耕農地を活用したそばづくりやそば打ち体験、集落ごとの食べ歩き行事を開催するなど、独自の活性化の仕組みづくりを進めてきた。

平成 26 年度には校区コミュニティ協議会準備委員会を立ち上げ、住民の意見交換等の話し合い活動を経て、平成 27 年度に北山校区コミュニティ協議会を設立した。

コミュニティ組織内に、総務部、青少年・スポーツ振興部、環境・安全・地域づくり部、地域福祉部の４つの専門部会を設置し、活動している。専門部とは別に地元の人と地元出身者で構成されている壮年部があり、専門部会のサポートとして地域内外の人がコミュニティ活動に参加しやすい体制づくりを工夫している。

特徴的な活動

①地域内外広く楽しめる！師走の祭典

令和元年からクリスマス前後の日曜日に「師走の祭典」を開催しており、例年 200 人程度が来場している。会場では、地元の竹材を利用したスタードームの設置、孟宗竹のクリスマスツリー、電飾によるライトアップが行われる。体験コーナーでは、そば打ち体験とスタードーム作り。屋外ステージでは、和太鼓や吹奏楽部の演奏などのクリスマスコンサートが行われる。さらに、キッチンカーやテントブースでいろいろな販売を行う北山マルシェがある。

このイベントで、地域住民はもちろん地域外の若年層や家族連れも楽しんでもらうことで、地域外の人に北山という地域を知ってもらうとともに、交流人口の増加につながっている。また、将来的には移住者の増加につながることを期待している。

師走の祭典

② これぞ地域資源！黄金の北山筍

地区には竹林が多く、昔から筍は地域の人々にとって身近な食材だった。筍の水煮も保存食として各家庭で作っていたが、これを商品化できないかと地域で試行錯誤を重ねた結果、「黄金北山筍」が誕生した。

「黄金北山筍」は、筍掘りから洗浄、茹で、瓶詰め、ラベル貼りまで全て地域の人々で行われており、物産館などでの人気商品となっている。

また、姶良市のふるさと納税の返礼品としても採用されており、令和３年度は 1,000 本以上が返礼品として出荷されるなど、地域資源を活かした重要な収入源となっている。

黄金北山筍

製造風景

今後の展望（コミプラの声）

令和４年３月 31 日に地域の路線バスが廃線となったため、予約型乗合タクシーの運行が４月１日より始まった。これは、予約したタクシーが自宅まで迎えに来て、地域外のスーパーなどの決まった乗降場所まで送迎してくれる、いわゆるデマンド型のサービスとなっている。利用料金は１回 200 円で、現在のところ利用者も多く好評。また、農協の移動販売車や移動金融車に週一度運行してもらっている。これらを継続していくとともに、特認生などの移住希望者のために、空き家を活用したいと考えている。

姶良市から一言

北山地区の高齢化率は 68.7％で、特認校である北山小学校は児童数 42 人のうち地元児童は５人（令和５年２月時点）と、少子高齢化はますます進行している状況です。そのため、ふるさと納税返礼品である「黄金筍」の PR をすることでコミュニティビジネスとして展開し、校区の活性化につながってほしいと期待しています。

併せて、毎年４月に行う「さくら祭り」は、地区住民の多くが参加し交流を深める場となっており、北山校区のスローガンである「支え合う思いやりと、ともに生きる長寿の里づくり」に沿った原点の事業だと感じています。

利用した補助金など

- 地域貢献サポート事業（県）（H30 年度）
- 校区コミュニティ協議会運営補助金（市）（H27 年度～）
- 校区まちづくり事業補助金（市）（H30～R2 年度）
- 企画提案型校区活性化事業補助金（市）（R3 年度～）

姶良市／北山校区
コミュニティ協議会

Passion

**子どもから高齢者まで集える
コミュニケーションの場づくりを！**

community platform report

笠沙地区振興協議会元気づくり委員会（南さつま市）

地域のシンボルを活かして活気の溢れるまちに！

高齢化率
65.2 %
305 人
地域の人口
令和５年１月１日時点

野間池漁港

地区概要

笠沙地区は、薩摩半島の西南端に位置し、三方を東シナ海に囲まれている。８つの自治会で構成されており、住民の大半が漁業従事者。

コミプラ設立の経緯

平成 17 年 11 月に旧１市４町（加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町）が合併し、それまで行われていたコミュニティ事業を引き継ぐような形で平成 20 年８月に「笠沙地区振興協議会元気づくり委員会」を設置した。設立にあたり、地域住民による将来を見据えた話し合いが盛んに行われ、コミュニティ活動の活性化に繋がった。また、地域の課題解決や資源を活かした身近な地域づくりを考え実践し、住民の交流活動を通じて連帯感を高めるため、「元気づくりプラン」を作成し、笠沙地域の活性化に取り組んできた。

平成 29 年度には２期目となる「元気づくりプラン」を作成し、更なる地域づくりや生きがいづくりに取り組んでいる。

特徴的な活動

①笠沙のシンボル、宇治群島ツアー

笠沙の黒瀬地区が平成 10 年に「星空日本一」に選ばれ、綺麗な星空が地域の自慢であることから、無人島である宇治群島で星空を観測する１泊２日のツアーを平成 28 年から行っている。参加者は毎年約 20 名限定で、地区住民の船で宇治群島に渡り、散策や釣り、星空観察などを行っている。宇治群島は 1909 年まで有人島であった島で、なかなか行くことのできない島であるため、リピーターがいる人気のツアーとなっている。

参加者は県内だけでなく全国各地から集まり、リピーターもいることから、交流人口の拡大につながっているとともに、地域外の人との交流は地域住民の楽しみとなっている。

宇治群島ツアー

②地域外の人も呼び込む！様々なイベントの企画

笠沙の海岸線と野間岬を見下ろす高台にある夕日ヶ丘公園では、東シナ海へ沈む美しい夕日を見ることができる。ここでは、南さつま市地域元気づくり事業「ふるさと『きばっど』事業」を利用して、公園を整備し、「野間岬ふれあいウォーキング」イベントを開催している。

コロナ禍で思うようにイベントやコミュニティ活動ができない中で、地域の元気を取り戻すために令和４年に始めた。笠沙地区だけでなく、地区外の人にも参加してもらい、20 分程度の道歩きと公園での抽選会などの活動を通して地域内外での交流を深めている。

その他にも、夕日コンサートや運動会、男性向けの料理教室として蕎麦打ちや天ぷら、郷土のお菓子作りを行うなどのイベントも実施しており、イベントの運営や参加することが、地域の人々の生きがいにつながっている。

道歩き

今後の展望（コミプラの声）

今行っている活動を続けていくことが一番。特に、今メインで行っている宇治群島ツアーや、毎年行っている運動会、令和４年から始めた道歩き（夕日ヶ丘公園周辺のウォーキングイベント）を今後も続けていく。また、サイクリングイベント「ツール・ド・南さつま」のコースに笠沙地区も入っており、参加者へのおもてなしとして地域で提供しているカレーは好評。こういった活動もきっかけに、笠沙地区の魅力を地域外に発信していきたい。

「ツール・ド・南さつま」でのおもてなし

南さつま市から一言

笠沙地区は地域資源を活かした魅力ある取り組みを行っている地区です。豊かな自然を地域の宝とし、その魅力ある宝たち「海」「山」「空」に光をあてたイベント等を開催するなど、地域外の人を呼び込む工夫をしており、今後の活動にも期待しています。是非皆様も笠沙地区にお越しください。

利用した補助金など

・ふるさと「きばっど」事業（市）（H26 ～ 27 年度、R3 年度～）

PASSION

地域外の人を巻き込んで、地域の魅力を余すことなく伝えるべし！

community platform report

中割地区再生促進協議会（西之表市）

地域の「やりたい」を廃校で実現

高齢化率
59.1 %
71 人
地域の人口
令和５年１月１日時点

移住記念碑

地区概要

種子島のほぼ中央に位置し、市街地から 20km 程離れた山間地である。大正３年（1914 年）の桜島大正大噴火で罹災した人々が、新天地として移住し開拓したことにより始まった。

昔からの自然が多く残っており、様々な地域資源や種子島・屋久島にしか自生していないヤクタネゴヨウという固有種も確認されている。

コミプラ設立の経緯

平成 26 年に閉校した鴻峰（こうのみね）小学校の校舎の活用策をさぐる「中割地区再生促進協議会」として発足。これをきっかけに地域住民と校区が地域課題及び地域活性化に協働して取り組む必要が生じたため、区長自ら住民に声かけを行い、話し合いや先進地視察を経て設立に至った。

協議会では３つの専門部会（総務、コミュニティ、交流活性化）を設けており、当初はそれぞれの部会で活動を実施していたが、現在は部会にとらわれず組織全体で廃校跡の「こうのみね館」を活用した取組を行っている。

特徴的な活動

①廃校の改修と活用

平成 26 年に閉校した旧鴻峰小学校の活用方法について、地区住民が意見を出し合って改修計画を立て、平成 29 年に「中割地区地域活性化交流拠点施設（こうのみね館）」として再生した。

健康づくりや生きがいづくり、また、地域住民と島内外の方々との交流の場として活用することを目標としている。こうのみね館では、地区の農家の方々による「農業体験」や絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウ自生地周辺での「自然散歩・山菜採り」など、中割でしか味わえない体験が多く用意されている。

また、こうのみね館では「こうのみねまつり」が行われており、もちつき体験やエイサー披露、農産物・地元産物の直売などが開催されている。特別教室棟に誘致した IT 企業が主催するイベントも開催され、廃校を有効活用し、地域活性化へ繋げている。

こうのみね館

②食農セミナーの開催

農作業を体験する機会の少ない方や関心を持っている方などに、毎月１回様々なメニューの農作業体験を楽しんでもらえるイベントを行っている。内容は、野菜等の手入れ、種まき、球根類の植え付け、花木の挿し木や接木の方法、安納芋や時計草の収穫、漬物つくり等となっている。

また、農業体験以外にも、季節の地元食材を使ったレシピの紹介や調理、試食もあり、新しく中割地区に引っ越してきた方々も地元食材を楽しみ、調理を学ぶことができる。中割地区内の方だけでなく、外部からの子ども連れも参加しており、食農セミナーを通して交流人口の増加につながっている。

食農セミナー

今後の展望（コミプラの声）

今後、更なる自然資源の発掘と活用をしていきたいと考えている。具体的には、食農セミナーの再開や自然散策の実施による交流人口の増加、そして移住・定住の促進をすることで、地区のにぎわいや活力創出につながることが期待されている。多くの方々が「中割に住んで良かった」と思えるような地域・他の校区に自慢できる中割を目指している。

西之表市から一言

令和３年度に、移住・定住や交流人口の拡大を図るため、校区単位では初めてとなる地域活性化包括連携協定を「こうのみね館」に誘致した東京の IT 企業・地元不動産会社と締結するなど、市内でも先進的な取り組みを行っている地域です。

実際に IT 企業の社員であるバングラデシュの方も２名、地域で暮らしています。

令和５年度は地域ワークショップ（課題解決とこうありたい未来を考える）を開催することが決まっており、 体験宿泊も含めて今後も「こうのみね館」を拠点とした中割校区の特色を活かしたコミュニティの場づくりをサポートしていきます。

利用した補助金など

・地方創生加速化交付金（内閣府）（H29 年度）
・過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業補助金（総務省）（H28 年度）

こうのみね館
（kounomine.com）

PASSION

廃校は可能性の塊！
ピンチをチャンスととらえるべし！！

community platform report

阿室校区活性化対策委員会（宇検村）

結いのこころ。地域全体で協働！人々が住みやすい村へ

高齢化率
42.2％
201 人
地域の人口
令和５年１月１日時点

阿室小中学校

地区概要

阿室校区は、奄美大島の南西部にある宇検村の西端に位置する。平田、阿室、屋鈍の３集落で構成され、農業、漁業の従事者が多い。村外への進学、就職が多く、人口減少が急激に進んでいる。

コミプラ設立の経緯

少子高齢化や小学校の閉校の可能性があることを受け、「何とかして学校を残したい」、「子どもの声が聞こえなくなるのは寂しい」という住民の思いから、３集落で話し合いを重ね、全住民の意向調査を経て平成 21 年に「阿室校区活性化対策委員会」を設立した。

委員会の中では山村留学班（児童募集、住宅確保、就職情報提供等）、企画班（交流イベントの企画等）、農業班（農業生産、商品開発等）に分かれて、それぞれの活動を行っている。

特徴的な活動

① アットホームな雰囲気「親子山村留学制度」

「親子山村留学制度」は“親子そろって”移住してもらい、自然や地域の人々とふれあいながら様々な経験をすることができる制度で、親子で安心して生活できるよう“地域ぐるみ”で支援している。これまでに、九州、関西、関東、北海道など様々な地域から移住者が集まっており、保護者は、役場職員、介護施設、養殖関係、就農、起業などにより就業している。

この制度によりＩ・Ｕターンを中心に移住者が増加したことで学校の休校が回避されたほか、移住者が農水産業や地域活動の重要な担い手となっている。

山村留学の子どもたち

② 農林水産大臣賞と天皇杯を受賞！地元民と移住者のむらづくり

Ｉ・Ｕターン者が増加したことで、新たな担い手による農業振興が行われている。タンカン産地では、高齢化や鳥獣被害で放置された畑が増えていたが、高齢者にとって大変な防除作業を、移住者を中心に結成された「タンカン防除班」に任せることで、タンカン産地の再生や移住者の就農支援につなげている。

また、移住者が中心となって、途絶えかけていた在来ニンニクの生産を拡大。地域の特産品として販売されるようになったことで、在来ニンニクが復活し、地域全体の所得向上にも繋がった。

さらに、女性Ｉターン者が中心となって合同会社を設立し、地域の農林水産物を活かした加工品や工芸品の製作に取り組んでいる。

これらの取り組みが評価され、平成 29 年度の豊かなむらづくり全国表彰事業において農林水産大臣賞を、農林水産祭のむらづくり部門において天皇杯を受賞した。

天皇杯受賞（第 56 回農林水産祭）

今後の展望（コミプラの声）

コロナの影響等により、今までやってきたことができていない状況にある。小規模企画提案に対する助成支援を利用することで少しずつ動いていき、活動しやすくなればと考えている。また、農林水産物の生産拡大や加工品の開発による農水産業の振興、農産物の集荷などの経済対策、高齢者の見守り活動などの福祉面による対策を行い、ここに住んで良かったと実感できるむらづくりを引き続き行っていきたい。

宇検村から一言

阿室校区は、子どもの人数を増やそうということから派生して、独自の取り組みで幅広い活動を行っており、良い地域づくりができている地区です。地域外の人が増えることに対して不安もありましたが、地域全体で地元の人が受け入れている印象があり、コミュニティが上手く形成されています。今後も、助成等を行うことで、活動をしやすいように支援していきたいと考えています。

利用した補助金など

・地域貢献サポート事業助成金（県）（R 元年度）

阿室小中学校公式ブログ
「阿室っ子日記」

Passion

**移住者の受け入れにあたっては
地元民の協力と移住者の理解を得るべし！**

community platform report

取材を終えて…

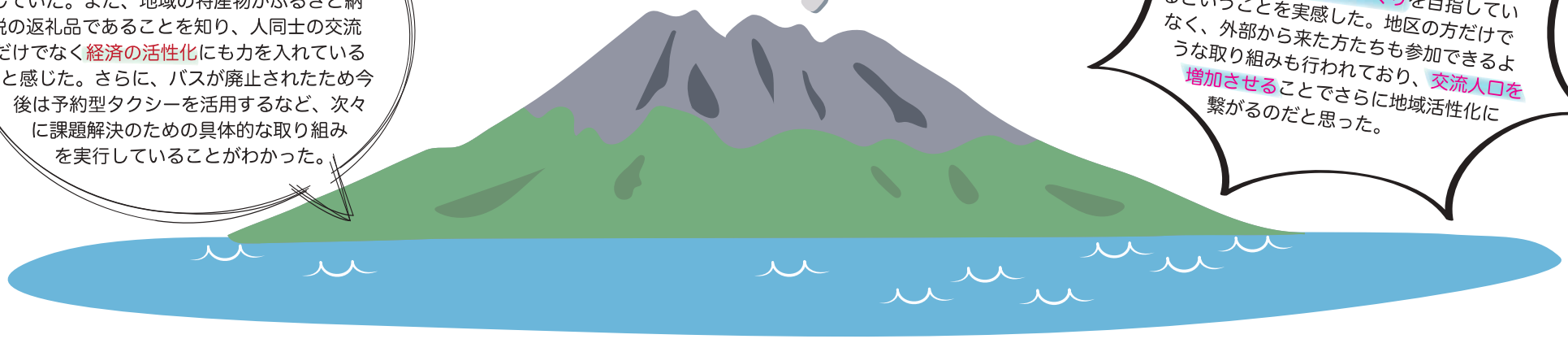
協議会や委員会が一方的に政策を決定するのではなく、住民と「協働」し、話し合いながら共に地域を作り上げていくことが重要で、そのことが地域の持続性を高めていくのではないかと感じた。また、地域の資源を活かすために広報やPR活動にも力を入れていく必要があると分かった。ただ人を呼び込んで受け入れるだけでなく、地元民の協力と移住者の理解を得ることで、お互いにとってよりよい地域づくりを行うことができるだろう。

行政に頼りきりではなく、自律（自立）し、自分達でも稼げるところを見つけていくことが必要だという意見が印象に残った。地域のあるもの探しを行っていくことが求められるのだと感じた。また、地域活動を引っ張っていくことのできるリーダー的存在があってこそ、地域活動は成り立つのではないかと考えた。そのようなリーダーを複数育成し、持続可能な地域活動を行うための環境を整えていくことも必要になるのではないかと感じた。

取材を進める中で、ひとつひとつの活動が地域住民にとっての楽しみであり、憩いの場となっていることが印象に残った。また、体操教室やサロン会で地区内の交流を深めたり、市場や収穫祭で地区外の人々とのつながりを創出しており、様々な規模の活動を継続的に行うことが大切だと感じた。それぞれの活動に共通しているのは、「人と話す場」となっている点であり、地域が明るくなる重要なポイントだと気づいた。

様々な行事を通して、小学生と高齢者との関わりを多く設けている印象だった。少子高齢化が進んでいるからこそ、世代を超えた交流を大事にしていた。また、地域の特産物がふるさと納税の返礼品であることを知り、人同士の交流だけでなく経済の活性化にも力を入れていると感じた。さらに、バスが廃止されたため今後は予約型タクシーを活用するなど、次々に課題解決のための具体的な取り組みを実行していることがわかった。

今回２つの地区を担当したが、どちらの地区も地域活性化のため様々な取り組みを行っており、幅広い世代で活躍できるまちづくりを目指しているということを実感した。地区の方だけでなく、外部から来た方たちも参加できるような取り組みも行われており、交流人口を増加させることでさらに地域活性化に繋がるのだと思った。



令和４年度　鹿児島大学法文学部
法経社会学科地域社会コース　片野田ゼミ（自治体政策論）

柏木 飛香（４年）　草野 志歩（３年）　末永 昇（２年）　福 佑心（２年）
新留 千尋（３年）　竹原 航太郎（３年）　平山 暖香（２年）　森元 亮希（２年）　片野田 拓洋（教員）
矢動丸 幸太（３年）　折田 陽香（３年）　中﨑 ももこ（２年）　脇田 公子（２年）

community platform report